

# ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果 —北九州市を事例に—

Effects brought to teams camp city in the Rugby World Cup 2019 :

A case study in Kitakyushu City

南 博

Hiroshi MINAMI

## 要 旨

本研究では、ラグビーワールドカップ2019のキャンプ地の中からウェールズ代表のキャンプ地となった北九州市を事例として、キャンプの実施状況等の整理分析と北九州市民の意識調査を実施した。北九州市では地道な交流事業や機運醸成を多様な主体が関わって積み重ねてきたこと等により、多くの面で「レガシー」を創出することに成功したと評価できる。今後の発展も期待でき、地域創生の面からも全国的に注目できる事例と言える。

<キーワード>： ラグビーワールドカップ、キャンプ地、国際交流、産官学連携、レガシー

## 1. はじめに

### 1.1 研究の背景

2019年9月20日に開幕し同年11月2日まで開催されたラグビーワールドカップ2019日本大会（RWC2019）は、世界各地から20か国・地域が参加してアジアで初めて開催されたラグビーワールドカップとなった。開催期間中に台風の影響で中止となる試合が生じるなどいくつかの課題はあったものの、全国12スタジアムでの観客動員数は延べ1,704,443人にのぼり、ラグビーの国際統括団体“ワールドラグビー”の会長が閉幕後に「ラグビーワールドカップ2019は、最高の大会の1つであり、私たちが愛するラグビーに新たな観客をもたらしたという点で非常に画期的でした。全世界のラグビーファンを代表して、このような素晴らしく、謙虚で、歴史的なホスト国であった日本と日本人に、心の底から感謝したいと思います。」<sup>1)</sup>と評価するなど、成功したと社会的に認識された大規模国際スポーツ大会となった。

ラグビーワールドカップ2019の開催効果や課題については、今後、様々な観点から研

究が行われていくものと考えられる。その観点の一つとして、「試合が開催された12都市以外の国内他都市における社会的・経済的効果」は重要と考える。ラグビーに限らず大規模国際スポーツ大会において、試合開催都市のみにおいて効果がある、あるいは特定の競技のファンのみが楽しむ状態にとどまれば、公的資金も投入する誘致国として「開催に成功した」と評価するには十分でなく、幅広い地域や人々にとって好影響を与えてこそ、社会的、政策的に成功したと評価できるのではないか。サッカーの2002FIFAワールドカップ日韓大会においても、外国代表チームのキャンプ地にもたらされた効果などが検証されている<sup>2)</sup>。また、オリンピックにおいては、大会の良い遺産を残すこと、すなわち「レガシー」の形成が重視されているが、ラグビーワールドカップにおいてもレガシーの形成への関心が高まっており、総務省（2017）では、レガシーを「大会をきっかけにして、社会、地域、人々の心に残るもの」と定義したうえで、ラグビーワールドカップ2019で期待されるレガシーとして、「スポーツ振興、スポーツ施設の整備」、「開催都市や公認キャンプ地の国際的知名度向上、スポーツ都市としてのブランド化」、「ボランティアの育成」、「文化振興」、「地域の活性化」、「ラグビー振興」、「観光振興」、「多様性への理解」、「国際交流・国際化」、「子供や若者への教育」などを挙げている。こうしたレガシーがどのような形で残されたのかを検証することは大きな意義があることと考える。その際、上述のように試合開催都市以外のキャンプ地等におけるレガシー構築の有無は、ラグビーワールドカップ2019の社会的影響を評価するうえで重要ではないか。

ラグビーワールドカップ2019では、全国61自治体が公認キャンプ地<sup>3)</sup>として指定され、その他、各外国代表チームが個別に大会前に調整等を行う事前キャンプ地となる自治体もあった。公認キャンプ地の61自治体を表1に示す。全国にキャンプ地は分布しており、地域創生の観点からはこれらの自治体等においてどのような社会的影響があったのかを検証することがラグビーワールドカップ2019の開催効果測定深化につながり、また今後の大規模国際スポーツ大会の開催効果を高め地域活性化につながる政策を検討していくために重要な示唆が得られると考える。これが本研究を進める大きな動機である。

ラグビーワールドカップ2019におけるキャンプ地のうち、全国的に注目された自治体の一つが北九州市である。例えば、2019年9月16日にミクニワールドスタジアム北九州で実施されたウェールズ代表の公開練習には満員の15,300人が集まり、観客がウェールズ国歌「Land of My Fathers」や応援歌「Calon Lan」を歌って選手を激励した様子等は報道やSNSで大きな話題となった<sup>4)</sup>。また、ウェールズ代表の大会最終戦（3位決定戦）

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

終了翌日の2019年11月2日、ウェールズラグビー協会は毎日新聞（うち、北九州市周辺向けの紙面）に「北九州市民への感謝」を記した全面広告を掲載し、このことは全国ニュース等でも大きく取り上げられた。北九州市は、報道やSNSを通じ「キャンプが成功した」と社会的にイメージされた可能性がある。ただし、この点に関する分析や検証は未だ行われていない。筆者は、ウェールズ代表キャンプ誘致で役割を果たした官民連携組織「北九州市大規模国際大会等誘致委員会」の検討会議委員を2014年7月から務めており、ウェールズ代表誘致活動やウェールズ代表関係者との交流活動などの一部に関わってきた。その状況を踏まえた上で、北九州市におけるラグビーワールドカップ2019・ウェールズ代表キャンプが成功したとされる要因や、幅広い市民からの評価について、研究者の視点から客観的に整理しておく必要があると考える。この点についても、本研究を進める大きな動機である。

表1 ラグビーワールドカップ2019の公認キャンプ地一覧

所在地	キャンプ地となった自治体(61自治体)	(参考) 試合開催スタジアム
北海道	北海道・江別市、札幌市(3)、網走市	札幌ドーム
岩手県	岩手県・釜石市、岩手県・宮古市、盛岡市、北上市	釜石鶴住居復興スタジアム
山形県	山形県・山形市・天童市	
福島県	福島県	
埼玉県	埼玉県・熊谷市(2)、さいたま市	熊谷ラグビー場
千葉県	市原市、浦安市	
東京都	東京都(3)、武蔵野市、府中市、町田市	東京スタジアム
神奈川県	横浜市、海老名市、小田原市	横浜国際総合競技場
山梨県	富士吉田市・富士河口湖町	
静岡県	静岡市、浜松市、掛川市・磐田市、御前崎市	小笠山総合運動公園エコパスタジアム
愛知県	名古屋市、一宮市、豊田市	豊田スタジアム
滋賀県	大津市	
大阪府	大阪府・東大阪市、堺市	東大阪市花園ラグビー場
兵庫県	神戸市・兵庫県、神戸市、淡路市・兵庫県	神戸市御崎公園球技場
和歌山県	和歌山県・上富田町	
山口県	長門市	
福岡県	福岡県・福岡市、北九州市、春日市	東平尾公園博多の森球技場
長崎県	長崎県・長崎市、長崎県・島原市	
熊本県	熊本県・熊本市(2)	熊本県民総合運動公園陸上競技場
大分県	大分県・別府市、大分市、別府市、大分県・大分市	大分スポーツ公園総合競技場
宮崎県	宮崎県・宮崎市	
鹿児島県	鹿児島市	
沖縄県	読谷村	

注1：県と市町村が共同でキャンプを受け入れる場合がある。その際（複数の自治体の場合）、本表では代表自治体・共同自治体の順で記載している。

注2：一つの自治体で複数のキャンプ地（スタジアム等）が選定されている場合がある。

（出典）ラグビーワールドカップ2019公式Webサイト掲載情報をもとに筆者作成

## 1.2 研究の目的

そこで本研究では、ラグビーワールドカップ2019におけるキャンプ地の中からウェー

ルズ代表のキャンプ地となった北九州市を事例として、キャンプの実施状況等を整理することを通じて特長を明らかにするとともに、キャンプ実施が成功したと評価できるかどうかを客観的に検証するため、一つの切り口として北九州市民の意識調査を実施し、キャンプ実施の成果と課題、今後の展望等に関する市民意識を把握する。これらを通じ、大規模国際スポーツ大会における外国代表チームのキャンプ誘致を地域創生につなげるために必要な事項を考察することを研究の目的とする。

### 1.3 研究の位置づけ

大規模国際スポーツ大会におけるキャンプ地における地域社会の活性化効果等に関しては、2002FIFA ワールドカップ日韓大会に関して木田ほか（2006）等がある。一方で、ラグビーワールドカップ2019に関しては、様々な報道などでは論評が行われているものの、学術的な研究は2019年度時点においては各所で着手された状況にある。

こうしたことから、本研究は北九州市を事例にラグビーワールドカップ2019のキャンプ地における状況を速報的に分析することにより、今後の日本におけるラグビーワールドカップ2019の検証や大規模国際スポーツ大会の政策的意義の検討等の研究を進める際に有用な事例を蓄積することに意義および独自性があると位置づける。

### 1.4 研究の方法

本研究は、北九州市におけるウェールズ代表キャンプ実施状況の把握・分析、ならびにウェールズ代表キャンプに関する北九州市民の意識の把握・分析という2つの内容で構成する。

北九州市におけるウェールズ代表のキャンプ実施状況の把握・分析については、キャンプの受け入れで中心的な役割を果たした北九州市市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室へヒアリング調査を行うとともに、筆者自身がキャンプあるいは事前の国際交流事業等に加わった際の参与観察の結果に基づき、事実関係の整理および定性的な考察を行う。

ウェールズ代表キャンプに関する北九州市民の意識の把握・分析については、北九州市民対象のアンケート調査（インターネット調査）を実施し、考察する。アンケートについては、ラグビーワールドカップ2019終了直後の2019年11月に実施するとともに、一部の設問については開催前の2019年3月に実施し、開催後との比較を行う。なお、2019年11月に実施した北九州市民を対象としたアンケート調査については、北九州市立大学が

北九州市大規模国際大会等誘致委員会から受託した受託研究の成果である。当該成果について本研究でとりまとめることに関しては、発注者から許可を得ている。

## 2. 北九州市におけるラグビー・ウェールズ代表のキャンプ実施状況および考察

### 2.1 ウェールズ代表のキャンプ受け入れの概要

#### 2.1.1 キャンプ受け入れの経緯

本章については、文献調査に加え、筆者による北九州市市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室へヒアリング調査、および筆者自身がキャンプあるいは事前の国際交流事業等に加わった際の参与観察の結果をまとめたものである。

北九州市では、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックの試合会場やキャンプ地の誘致に向け、2014年7月、官民連携組織である「北九州市大規模国際大会等誘致委員会」が設立された。この組織は、市内の経済団体、市議会、体育関係団体、観光関係団体、行政で構成された組織であり、スポーツ庁から「スポーツコミッション」<sup>5)</sup>と位置づけられている。筆者は北九州市大規模国際大会等誘致委員会の内部組織である「検討会議」の構成員として、各種事業の一端に参画した。

この北九州市大規模国際大会等誘致委員会の設立の背景の一つとして、北九州スタジアム（ミクニワールドスタジアム北九州）が2017年から供用開始予定であったことが挙げられる。本稿ではその詳細については省略するが、このスタジアムは北九州市の中心部であるJR小倉駅から徒歩7分という“まちなか”に立地し、都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指して整備された、サッカー・ラグビーでの利用を中心に様々な用途での活用を指向したスタジアムである。

このスタジアムの整備が進む段階であったこともあり、ラグビーワールドカップ2019関連の誘致の検討が進められた。南（2014）では、「ラグビーワールドカップについては、北九州スタジアムを試合会場として国内選考に立候補する場合と、北九州スタジアムや市内の関連施設等を総合的に連携させて外国チームのキャンプ地として出場国への誘致活動を行う場合の2通りのスタジアム活用方法を比較考量し、2014年9月の会議においてキャンプ地誘致に専念することで意見集約した」と整理している。キャンプ地誘致に専念した理由として、同じく南（2014）では、「試合会場となる場合と比較し、外国チームの滞在期間が長い（数週間にわたる）ことにより、市民との交流進展や北九州市の知名度向上への寄与が大きいと考えられること等が挙げられる。また、2019年にキャンプ地として実

績を積むことが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致に直結することも期待できる」としている。

この2014年以降、北九州市大規模国際大会等誘致委員会、および事務局の北九州市市民文化スポーツ局大規模大会誘致推進室（その後、国際スポーツ大会推進室に名称変更）においてラグビーワールドカップ2019におけるキャンプ地誘致に向け、様々な取り組みが行われた。ウェールズ代表とは、北九州市立大学がウェールズのカーディフ大学と1992年に大学間協定を締結し交流を続けてきたこと等をきっかけに協議が進められた。北九州市立大学へ留学経験（当時は北九州大学）があり、現在は北九州英国名誉領事として北九州市内で活動しておられるローレンス・チヴァス氏の協力を得ること等を通じ、北九州市大規模国際大会等誘致委員会は積極的な誘致活動を行った。2016年5月に北九州市側がウェールズラグビー協会等を訪問して北九州視察を提案し、2016年9月にウェールズ代表関係者が北九州市を視察、2016年10月にはウェールズラグビー協会における検討で北九州市が事前キャンプ地として決定され、2016年11月に北九州市とウェールズラグビー協会による「事前キャンプに関する覚書」が締結された。

なお、ラグビーワールドカップにおけるキャンプは、「公認（チーム）キャンプ」、「事前（チーム）キャンプ」の2種類がある。ラグビーワールドカップ2019組織委員会（2016）によると、事前キャンプ地は、本大会期間前にチームが滞在するキャンプ地のことを指し、組織委員会が原則として関与せず、自治体がチームと直接交渉して決定される。公認キャンプ地は本大会期間中にチームが滞在するキャンプ地のことを指し、選定プロセスは全て組織委員会が実施し、応募した自治体とチームが直接交渉することは認められない。そのため、2016年11月に締結された覚書は、事前キャンプに関するものであった<sup>6)</sup>。

### 2.1.2 ウェールズ代表チームの受け入れに向けて事前に行われた各種事業

2016年11月の「事前キャンプに関する覚書」締結後、北九州市とウェールズラグビー協会による様々な交流を展開することとなる。2017年7月、北九州市とウェールズラグビー協会により、キャンプのレガシーを北九州市に残すための交流プログラムの具体的検討が開始された。ウェールズラグビー協会からは複数回の交流プログラムの実施の要望・提案があり、その内容の検討を進めることと併せて、費用面の検討が北九州市大規模国際大会等誘致委員会において実施された。結果として、ワールドホールディングス、第一交通産業、安川電機、門司港運、J:COM、新ケミカル商事、九州医療スポーツ専門学校、ゼン

ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

リン、スターフライヤー、西鉄バス北九州といった地元企業や北九州にゆかりの深い企業がスポンサーとなり、また個人や企業を対象としたラグビーウェールズ代表応援団が構成され、「ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州」がスタートすることとなった。複数の地元企業等が資金面を含めたスポンサーとなったことは、交流事業の充実に際して非常に重要な役割を果たしたと考えられる。「ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州」は、2018年8月から2019年9月にかけて3回（2018年1月のプレ事業を含めると4回）実施された。

この「ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州」の他、ウェールズ代表チームキャンプの実施、機運醸成に向けた北九州市における事前の各種取り組み等について、北九州市大規模国際大会等誘致委員会資料をもとにとりまとめたものを表2に示す。2016年11月以降の3年間で多岐にわたる交流プログラムが展開され、それに多くの市民や企業等が関わっていることがうかがわれる。これらの実施に際しては、北九州市大規模国際大会等誘致委員会の構成員である北九州市と北九州ラグビー協会、また北九州市教育委員会が重要な役割を果たしたが、そのほか多くの市民や企業等が積極的に参加し、ラグビーワールドカップ2019が開会する前までの間に北九州市内においてはウェールズ代表チームを歓迎する機運が醸成されてきたと言えよう。

なかでも、学校訪問を積み重ねてきたことや大規模イベントで市民との交流を継続的に実施してきたこと、そして「歌の国」とも言われるウェールズの特徴を踏まえて「歌でウェールズ代表を歓迎しよう」とする動きが広まったことは、ラグビーに関心のある市民以外の幅広い世代の市民に、ウェールズ代表がキャンプを実施予定であることを広め、そして歓迎機運を醸成したことに繋がったと言えよう。さらに、キャンプ実施の約2か月前から小倉駅周辺エリアを中心に実施された「都市装飾」では、小倉駅に多数のウェールズ国旗が飾られ、ウェールズ代表のチームカラーの赤色の装飾が各所に施され、ウェールズ代表の歓迎ムード醸成や2019年9月16日に小倉駅近くのミクニワールドスタジアム北九州で公開練習が行われることの告知を、市街地を訪れる多数の人々に対し、わかりやすく印象的に伝える効果があったと考えられる。なお都市装飾は、小倉城の赤色ライトアップや路線バスへのラッピングなど幅広い工夫が行われ、百貨店等からも壁面を装飾する等の協力を得た。

こうした様々な取り組みを市民、企業、学校、各種団体、行政等が協働して展開してきたことが、北九州市におけるウェールズ代表キャンプ実施の機運を盛り上げ、2019年9

月16日の公開練習に15,300人が訪れてスタジアムを赤く染めて合唱することを実現し<sup>7)</sup>、国内外の報道やSNS等で「北九州市のウェールズ代表の歓迎ぶりのすごさ」が大きな話題となることに繋がったと言えよう。

表2 北九州市におけるウェールズ代表キャンプおよびラグビーワールドカップ2019関連の大会開幕前の活動等一覧

分類	取り組み名	概要
ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州	第1回ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：2018年8月1日～5日</li> <li>・ウェールズからの参加者：9人（元代表選手、指導者、広報等）</li> <li>・ラグビー教室等：小中高校生対象4回345人参加、社会人等対象1回76人、審判・コーチ対象2回69人、タグラグビー体験1回約100人</li> <li>・市民との交流等：「わっしょい百万夏まつり」での市民パレード参加（約300人の応援団参加）、市立病院への訪問、北九州市立大学への訪問、スポンサー企業との昼食会など</li> <li>・機運醸成：ウェールズ代表の応援シールを北九州市消防局の消防車両に貼付</li> </ul>
	第2回ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：2019年3月22日～27日</li> <li>・ウェールズからの参加者：12人（元代表選手、女子現役選手、チェアマン、CEO、指導者、広報等）</li> <li>・ラグビー教室等：小中高校生対象5回480人参加、社会人等対象2回145人、審判・コーチ対象2回63人、タグラグビー体験1回約80人</li> <li>・市民との交流等：「全力！黒崎」イベントへの参加、市民との交流会、スポンサー企業への訪問、メディア交流会など</li> <li>・機運醸成：西鉄ラッピングバス（赤色、応援メッセージ）、トークショー、商店街への懸垂幕掲出</li> </ul>
	第3回ラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：2019年9月10日～16日</li> <li>・ウェールズからの参加者：8人（元代表選手、指導者、障害者ラグビー専門家等）</li> <li>・ラグビー教室等：小中高校生対象1回70人参加、社会人等対象1回70人、審判・コーチ対象2回90人、大学生対象1回70人、学校訪問での教室4回約500人</li> <li>・市民との交流等：学校訪問（小学校3校、中学校1校、特別支援学校1校）、中学校体育大会訪問3校、百貨店でのトークイベント、公開練習直前PRイベント（2000人参加）、スポンサー企業への訪問、メディア交流会</li> <li>・機運醸成：小倉城を赤くライトアップ</li> </ul>
ウェールズ代表キャンプの実施	ウェールズ代表チーム到着の歓迎セレモニー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歓迎セレモニー：2019年9月14日、北九州空港にて実施。市民等約500人参加。</li> <li>・市主催歓迎レセプション：2019年9月14日、ホテルにて実施。市内小学生によるウェールズ国歌等の合唱などを実施。</li> </ul>
	公開練習	2019年9月16日、ミクニワールドスタジアム北九州にてウェールズ代表チームが公開練習を実施。満員15,300人の観客が集合。観客によるウェールズ国歌の大合唱等で歓迎。練習後には選手がファンサービス実施
	チームウェルカムセレモニー	2019年9月16日、大会公式行事のウェールズ代表チームウェルカムセレモニーを北九州国際会議場で開催。会場装飾および余興として小倉祇園太鼓（国指定重要無形民俗文化財）を披露。
	学校訪問	2019年9月17日、代表選手3人、コーチ1人が小学校1校を訪問。
機運醸成	都市装飾	2019年7月中旬から11月上旬、北九州市都心部の小倉駅周辺エリアを中心に、のぼり旗、ポスター、バナー等を設置し、北九州市がウェールズ代表チームキャンプ地であることをPR。路線バスや公用車等も装飾。街にウェールズ代表チームカラーの赤色とウェールズ国旗が溢れた。
	歌声練習	2019年6月から9月にかけて、市民、小学校、団体等でウェールズ国歌「Land of My Fathers」や応援歌「Calon Lan」を練習。9月16日の公開練習時にミクニワールドスタジアム北九州で合唱。

（出典）北九州市大規模国際大会等誘致委員会資料をもとに筆者作成



ラグビーワールドカップ 2019 日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

2.1.3 ラグビーワールドカップ 2019 大会期間中および大会終了後における波及的動向

2.1.2 で記したラグビーワールドカップ 2019 開幕前の様々な取り組みに加え、ラグビーワールドカップ 2019 開幕後も北九州市においてはウェールズ代表に関わる様々な応援活動等が行われた。また、大会期間中や大会終了後に、ウェールズと北九州市の間で様々な交流促進の動きがあった。それらを表 3 に示す。

表 3 北九州市におけるラグビーワールドカップ 2019 期間中・大会後の諸動向等一覧

分類	取り組み名	概要
ウェールズ代表の応援	市民応援団の派遣	・2019年10月13日に熊本市で開催されたウェールズ vs ウルグアイに約100人の市民応援団を派遣。
	パブリックビューイング	・プール戦：ウェールズ vs フィジー、10月9日（水）に北九州市立水環境館で実施。来場者数250人 ・準決勝：ウェールズ vs 南アフリカ、10月27日（日）に北九州市立水環境館で実施。来場者数350人 ・3位決定戦：ウェールズ vs ニュージーランド、11月1日（金）に西日本総合展示場本館で実施。来場者数1,200人 ※決勝のイングランド vs 南アフリカもパブリックビューイング実施。
特筆すべきメディア関連動向	海外メディアによる報道	・2019年9月16日のミクニワールドスタジアム北九州での公開練習に15,300人の来場がありスタジアムが赤く染まったことや、下述するウェールズラグビー協会の広告等については海外で大きく報道された。 ※報道したメディア（例）：BBC、ITV、EveningStandard、WalesOnline（イギリス）、CNN、ESPN（アメリカ）、RUGBYPASS
	ウェールズラグビー協会からの感謝広告	・ウェールズ代表のラグビーワールドカップ 2019 最終戦の翌日の2019年11月2日の毎日新聞朝刊に、ウェールズラグビー協会から北九州市民に向けた感謝のメッセージの全面広告掲載。
	北九州市からウェールズへの返礼広告	・上述のウェールズラグビー協会による広告を受け、2019年11月7日のウェールズの有力紙「ウエスタン・メール」に、北九州市からウェールズに向けた返礼のメッセージの全面広告掲載。
	国内メディアでの報道	・ウェールズ代表の公開練習の件や、感謝の全面新聞広告掲載のやりとりの件について、NHK はじめ全国向けのメディアでも多数報道された。北九州市役所の推計によると、ラグビーウェールズ代表の北九州市でのキャンプ実施に係るパブリシティ効果推計額は約23億3700万円。
様々な交流への波及	ウェールズ首席大臣による北九州市訪問	・2019年9月28日、ラグビーワールドカップ 2019 の視察のため訪日していたウェールズのマーク・ドレイクフォード首席大臣が北九州市を訪問し、市内視察や、市長・市議会議長への表敬訪問等を実施。
	ロイヤル・ハーピストによる北九州市訪問	・2019年10月25日、チャールズ皇太子（Prince of Wales）付の専属ハーブ奏者「ロイヤル・ハーピスト」のアリス・ヒューズ氏（ウェールズ出身）が北九州市を訪問し、小学校への訪問や百貨店での演奏会を通じ市民と交流。
	ウェールズラグビー協会と北九州市の覚書（レガシー協定）締結	・ラグビーワールドカップ 2019 の開催前並びに開催期間中に両者の間で培われた友好・協力関係を維持し、さらに発展させていくことを目的として、ウェールズラグビー協会と北九州市との間で「ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーの一環としてのウェールズラグビー協会と北九州市との友好・協力関係に関する覚書」（通称：レガシー協定）を締結。締結日は2020年2月22日。カーディフ市のプリンシパリティ・スタジアムで締結式を実施。

（出典）北九州市大規模国際大会等誘致委員会資料、北九州市記者発表資料をもとに筆者作成

ウェールズ代表と北九州市の交流に関することが国内外で大きく報道されたことは北九州市のシティプロモーションやイメージアップに大きく寄与したと考えられる。そこから波及して、ラグビーワールドカップ 2019 期間中におけるウェールズ首席大臣やロイヤル・ハーピストによる北九州市訪問などラグビー以外の分野での国際交流の進展の芽が生まれ、そして大会終了後にウェールズラグビー協会と北九州市のレガシー協定「ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーの一環としてのウェールズラグビー協会と北九州市との友好・協力関係に関する覚書」の締結にまで昇華した点は、キャンプ地におけるレガシー形成の事例として特筆できると言えよう。

## 2.2 考察

ラグビーワールドカップ 2019 においてウェールズ代表が北九州市を事前キャンプ地として選定した理由としては、スタジアム、ホテル、トレーニング環境などが整っていたことに加え、官民連携組織「北九州市大規模国際大会等誘致委員会」のメンバーがキャンプ誘致に強い情熱を持って活動した点、ウェールズにゆかりのある有力な人材が北九州市内にいた点などが要素として考えられる。

また、キャンプ受け入れに向けた交流活動や実際のキャンプの受け入れ段階においては、3年間にわたる継続的な交流、特にキャンプ1年半前からは具体的な交流プログラムを市民を巻き込みながら展開し、また企業による資金的な協力や、都市装飾への様々な組織の協力など、地域が力を合わせた取り組みを行い、ウェールズラグビー協会などの関係者を力づけるとともに北九州市内におけるウェールズ応援機運が大きく醸成された。そのことがウェールズ代表の公開練習に 15,300 人が集まり大きな話題となることに繋がったと考えられる。さらに、ウェールズが「歌の国」であることから、合唱による歓迎を子どもからお年寄りまで市民が楽しみながら参加する形で実施し、それが北九州市に来たウェールズ代表チームはもちろん、SNS 等を通じて拡散することでウェールズ政府や人々を感動させ、文化面での交流や今後の継続的な交流に発展していくことに繋がったと考えられる。「市民の力」、「企業の力」、「各種団体や行政の力」、「ラグビーの力」、「歌の力」、「SNS の力」などがうまく噛み合い、北九州市でのキャンプ受け入れ効果が相乗的に高まっていったと考えられる。なお、SNS ではウェールズラグビー協会をはじめ様々な人々が撮影した動画が用いられることで拡散が進んだが、その他、北九州市大規模国際大会等誘致委員会、ウェールズラグビー協会ともに様々な動画を作成し、キャンプの機運醸成や対外発信

に活用していた。動画を活用した効果的な情報発信がうまくいった点も特徴的と言えよう。

北九州市でのキャンプ実施後（ラグビーワールドカップ 2019 大会期間中および期間後）も、北九州市はウェールズ代表を応援するための様々な取り組みを実施した点も特筆すべき点である。そのことがウェールズラグビー協会から北九州市民に向けた感謝のメッセージの新聞全面広告掲載、およびその返礼として北九州市からのウェールズの新聞への全面広告掲載につながり、それが再び話題となって国内外で「ウェールズ代表と北九州市民の交流の深さ」が再発信されることにつながった。メディアによるパブリシティ効果（金額換算すると北九州市推計で約 23 億 3700 万円）は、交流が強まっていく中で飛躍的に高まっていったものと言えよう。いわば「中身のある“本物”」だからこそ人々の共感を得て話題となっていったものであり、表面的な情報発信ではなかった点が重要と考える。

このように北九州市においては、「キャンプ誘致活動」、「キャンプ受け入れに向けた交流活動」、「キャンプの受け入れ」、「キャンプ実施後（ラグビーワールドカップ 2019 大会期間中および期間後）」の各段階において、いずれもウェールズラグビー協会やウェールズ関係者、そして第三者（報道機関、報道や SNS 等で状況を知った国内外の人々）から高く評価され、また北九州市民からも賛同を得られる取り組みが行われたと言えよう。このことが 2020 年 2 月のレガシー協定「ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーの一環としてのウェールズラグビー協会と北九州市との友好・協力関係に関する覚書」の締結に至ったものであり、ラグビーワールドカップ 2019 のキャンプ地として最大限のレガシー創出に成功したと評価できるのではないか。

### 3. ラグビーワールドカップ 2019 閉幕直後に実施した北九州市民意識調査

#### 3.1 調査実施概要

##### 3.1.1 調査の概要

ラグビーワールドカップ 2019 においてウェールズ代表チームのキャンプを受け入れた北九州市においては、2. で整理したようにキャンプ地として最大限のレガシーの創出に成功したと推測できるが、客観的に測定して評価する必要がある。特に、受け入れを行った北九州市民がどのような意識を持っているかは、今後の北九州市における外国チームキャンプ誘致に向けた政策を検討する上でも重要と考えられる。そこで、ラグビーワールドカップ 2019 におけるウェールズ代表キャンプに関する北九州市民の意識を閉幕直後に把握分析し、キャンプ実施の成果と課題等を整理することを目的として、市民意識調査を実施する。

調査方法は、北九州市在住の18歳以上の市民を対象としたインターネット調査とする(配布回収は民間調査会社に委託)。調査実施概要を表4に示す。本調査における有効サンプル数は1,086となった。なお、インターネット調査については、南(2016)において「学術研究におけるインターネット調査の有意性を巡っては様々な議論があり、インターネットを利用するという制約から、高齢者やパソコン等の利用が容易ではない市民からの回答は少なくなる点、それらに起因し『登録されたモニターの回答は、調査対象とすべき母集団(本調査においては一般的な北九州市民)の意見を代表していると証明できない』点などが指摘されている」として手法面の課題を指摘している。しかしながら、本研究においてはラグビーワールドカップ2019閉幕直後の北九州市民の意識を迅速に把握することに主眼を置き、インターネット調査を用いることとする。

表4 アンケート調査実施概要

調査方法	登録モニターに対するインターネット調査
調査対象	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、民間調査会社が管理・利用する調査モニターへ登録している市民
調査期間	2019年11月26日～28日
有効回答数	1,086サンプル
備考	調査実施に際しては、調査名による回答者の偏りを小さくするため、ラグビー、ワールドカップという単語をタイトルに用いず、登録モニターへの回答依頼を実施

### 3.1.2 回答者の属性

回答者の性別および表5、居住地(北九州市の行政区別)を表6、職業等を表7に示す。年齢についてインターネット調査の特性のため高齢者の構成比が少ないが、その他は特異な偏りは見られず、インターネット調査モニター登録者という条件のもとの一般的な北九州市民の回答傾向としてとらえることに支障はないと位置づける。

表5 回答者の性別および年齢

	男性	女性	合計 (n=1,086)
18-29歳	1.6%	4.8%	6.4%
30-39歳	4.3%	11.7%	16.0%
40-49歳	12.2%	15.7%	27.9%
50-59歳	14.3%	11.0%	25.2%
60-69歳	11.4%	7.2%	18.6%
70歳以上	3.9%	2.0%	5.9%
合計 (n=1,086)	47.7%	52.3%	100.0%

表6 回答者の居住地

	回答者数	構成比
門司区	116	10.7%
小倉北区	199	18.3%
小倉南区	253	23.3%
若松区	85	7.8%
八幡東区	79	7.3%
八幡西区	277	25.5%
戸畑区	77	7.1%
合計	1,086	100.0%

表7 回答者の職業等

	回答者数	構成比
会社員・役員	380	35.0%
公務員・団体職員	73	6.7%
自営業・自由業等	83	7.6%
派遣・契約社員	56	5.2%
パート・アルバイト	172	15.8%
学生	11	1.0%
専業主婦・専業主夫	171	15.7%
無職	116	10.7%
その他	24	2.2%
合計	1,086	100.0%

## 3.2 調査結果

### 3.2.1 ラグビーワールドカップ2019開催の認知度

「あなたは、今年9～11月に「ラグビーワールドカップ2019日本大会」が開催されたことをご存知ですか」（択一式）という問いに対する回答を主な属性別（回答者計、性別、居住地別、年齢別）にみた結果を図1に示す。回答者計では94.7%という大半の回答者が開催を認知している。年齢別にみると若い世代において認知度が低い傾向が見られる。

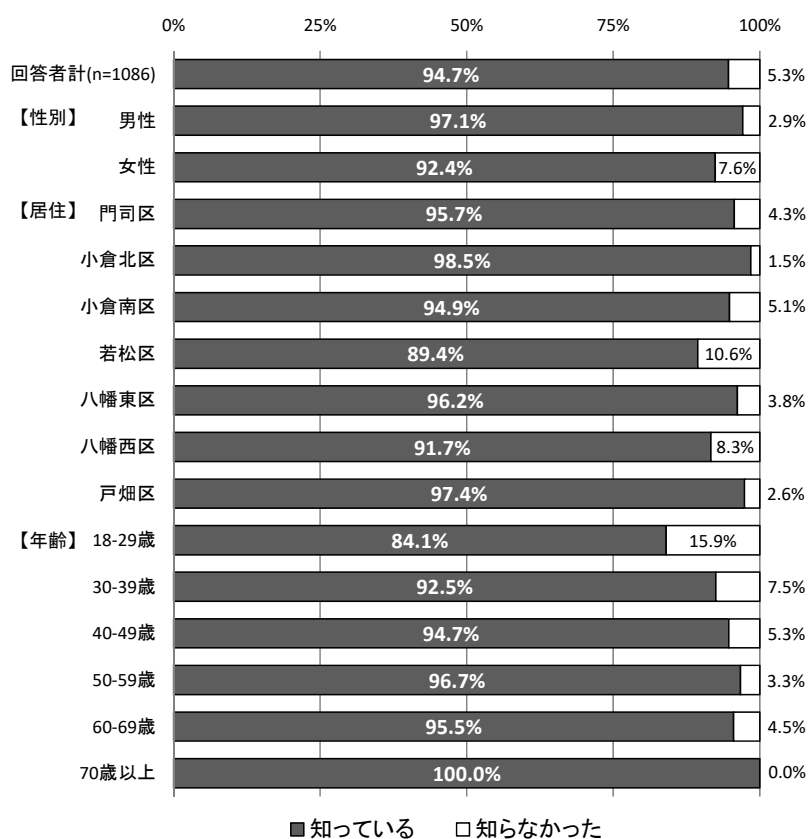


図1 ラグビーワールドカップ2019開催の認知度（属性別）

### 3.2.2 ラグビーワールドカップ2019での応援チーム

選択肢として全参加チーム（20カ国・地域）と「特に応援したチームはない、該当なし」を示した上で、「あなたは、ラグビーワールドカップ2019日本大会でどのチームを応援しましたか」として上位3番目まで順番に回答を求めた結果を表8に示す。1番目に応援し

たチームに関しては日本代表が特に多く、次いで「特に応援したチームはない、該当なし」(回答者の20.6%)、次いでウェールズ代表となっている。2番目に応援したチームは、「特に応援したチームはない、該当なし」を除くと、ウェールズ代表が最も多く、次いでニュージーランド代表、南アフリカ代表の順となっている。3番目に応援したチームは、同様に南アフリカ代表、ニュージーランド代表、イングランド代表の順となっている。

1～3番目までの合計では、日本代表およびラグビーワールドカップ2019ベスト4に進出した4チーム(優勝:南アフリカ代表、準優勝:イングランド代表、3位:ニュージーランド代表、4位:ウェールズ代表)の計5チームの回答が多くなっている。日本代表以外で最も回答が多いのはウェールズ代表(27.6%)であり、従来から日本において“オールブラックス”の愛称で知られているニュージーランド代表(22.4%)よりも多くなっている。他都市との比較は本調査では実施していないが、ウェールズ代表を応援した市民が多いことは、北九州市がウェールズ代表のキャンプ地であった効果と考えられる。

表8 ラグビーワールドカップ2019での応援チーム

	合計 n=1,028			合計		多い順 上位5チーム
	1番目	2番目	3番目	(回答数)	(構成比)	
アイルランド	2	20	19	41	4.0%	1番
スコットランド	4	13	21	38	3.7%	
日本	765	28	10	803	78.1%	
ロシア	0	1	0	1	0.1%	
サモア	2	5	13	20	1.9%	
ニュージーランド	12	136	82	230	22.4%	3番
南アフリカ	2	97	102	201	19.6%	4番
イタリア	0	0	2	2	0.2%	5番
ナミビア	1	0	3	4	0.4%	
カナダ	0	3	8	11	1.1%	
イングランド	2	24	65	91	8.9%	
フランス	0	4	7	11	1.1%	
アルゼンチン	0	2	2	4	0.4%	2番
アメリカ	0	4	4	8	0.8%	
トンガ	0	3	5	8	0.8%	
オーストラリア	1	6	13	20	1.9%	
ウェールズ	24	207	53	284	27.6%	
ジョージア	0	0	1	1	0.1%	—
フィジー	1	0	7	8	0.8%	
ウルグアイ	0	2	3	5	0.5%	
特に応援したチームはない、該当なし	212	473	608	—	—	

※「特に応援したチームはない、該当なし」の2番目、3番目の回答数は累計。  
 ※選択肢の並び順は、RWC2019の予選プールでの登録順。

### 3.2.3 ラグビーワールドカップ 2019 試合観戦の有無

「あなたは、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の試合を観戦しましたか。なお、「テレビやネットでの観戦」とは、試合中継（録画含む）のことを指します」（択一式）として、試合観戦の状況について回答を求めた結果（主な属性別）を図2に示す。スタジアムで観戦した回答者は回答者全体の1.1%にとどまり、テレビやネットでは観戦した回答者が68.6%を占める。観戦しなかった回答者は30.3%となっている。若い世代では観戦しなかった比率が高くなっている。

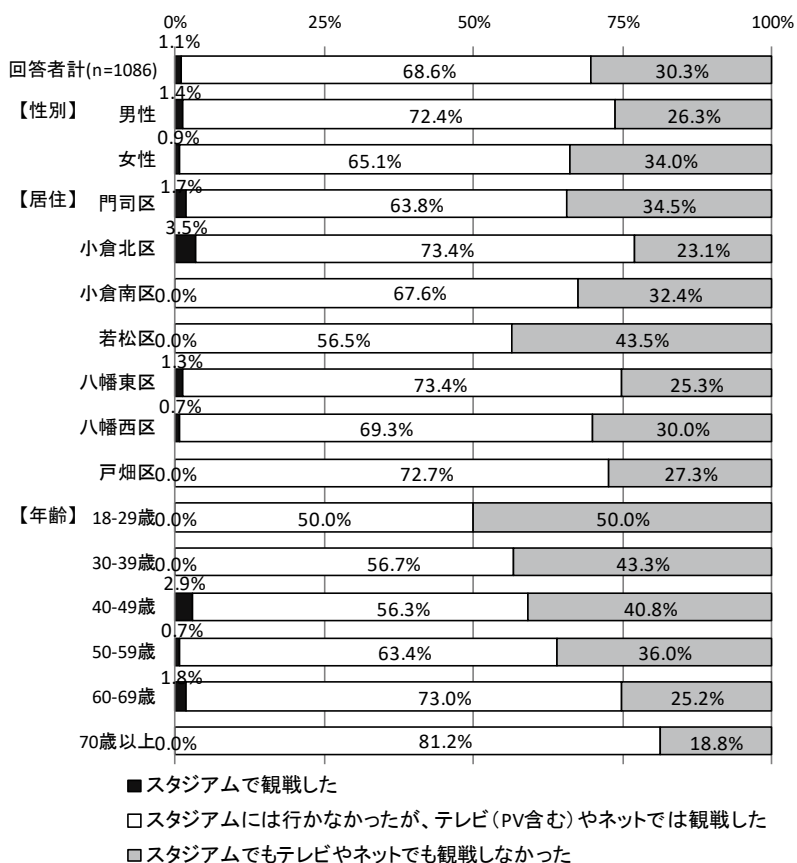


図2 ラグビーワールドカップ 2019 試合観戦の有無（属性別）

### 3.2.4 ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことの認知度

「あなたは、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催に際し、北九州市でウェールズ（イングランドやスコットランドなどと並び、イギリスを構成する地域の一つ。）代表がキャ

ンプ(合宿)・公開練習を行ったことをご存知ですか」(択一式)として回答を求めた結果(主な属性別)を図3に示す。回答者全体では71.1%が「知っている」と回答している。属性別にみると性別では男性の方がやや認知度が高く、居住地別では市西部の八幡西区、若松区において認知度が低い傾向がある。年齢別では18～29歳では「知っている」とする回答が46.4%にとどまっている点が特筆すべき点であり、年齢が上がるほど認知度が高くなっている。

この回答をもとに、3.2.5から3.2.8においてはウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことを知っている回答者に対し、当該キャンプに関し質問した結果を示す。

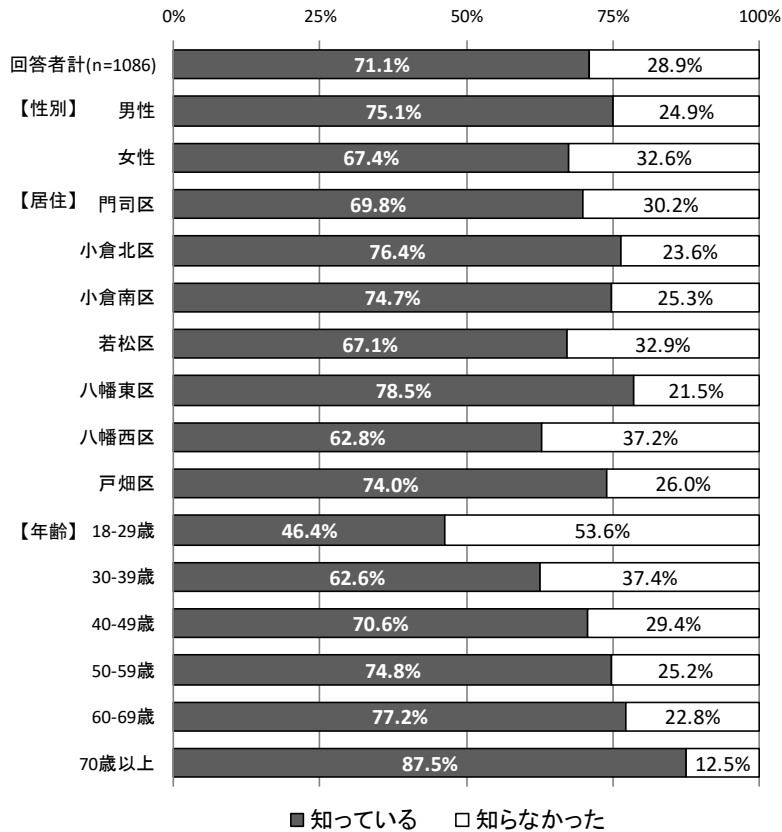


図3 ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことの認知度(属性別)

### 3.2.5 ミクニワールドスタジアム北九州での公開練習の見学状況

ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことを知っている回答者に対し、「あなたは、今年9月16日にミクニワールドスタジアム北九州で開催された、ラグビーウェー



ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

ルズ代表の公開練習に行きましたか」(択一式)と回答を求めた結果(主な属性別)を図4に示す。対象となる回答者計で6.9%が公開練習を見学しており、スタジアムにある小倉北区においては11.8%の回答者は見学したと回答している。

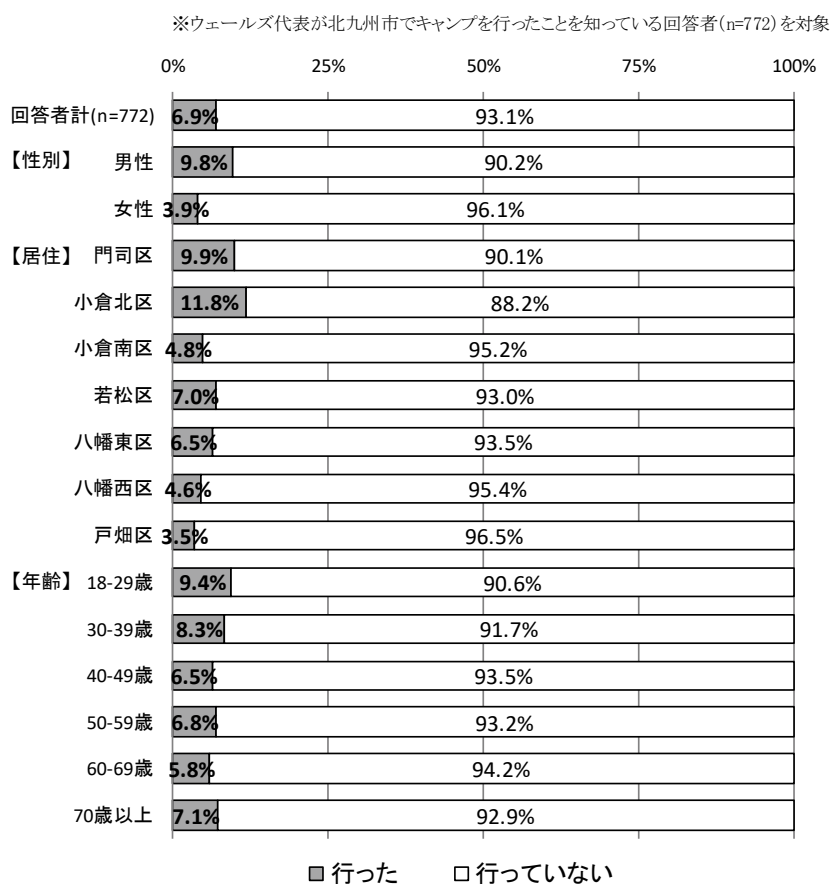


図4 ミクニワールドスタジアム北九州での公開練習の見学状況(属性別)

### 3.2.6 北九州市でウェールズ国歌や応援歌を歌って選手を激励したことへの認識

2.で述べたように、ウェールズ代表が公開練習を行った際、15,300人の人々がミクニワールドスタジアム北九州に集まり、ウェールズ国歌「Land of My Fathers」や応援歌「Calon Lan」を歌って選手を激励した。このことは国内外で非常に大きな反響があった。

ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことを知っている回答者に対し、「ラグビーウェールズ代表の公開練習や、試合時のパブリックビューイング会場において、多く

の北九州市民がウェールズ国歌や応援歌を歌って選手を激励したことについて、どのよう  
にお考えですか」(択一式)と回答を求めた結果を図5に示す。

回答者計でみると「とても良かった」56.9%、「ある程度良かった」25.5%であり、否定  
的な回答は1%に満たない。キャンプ実施を知っていた市民からは高く評価されている。

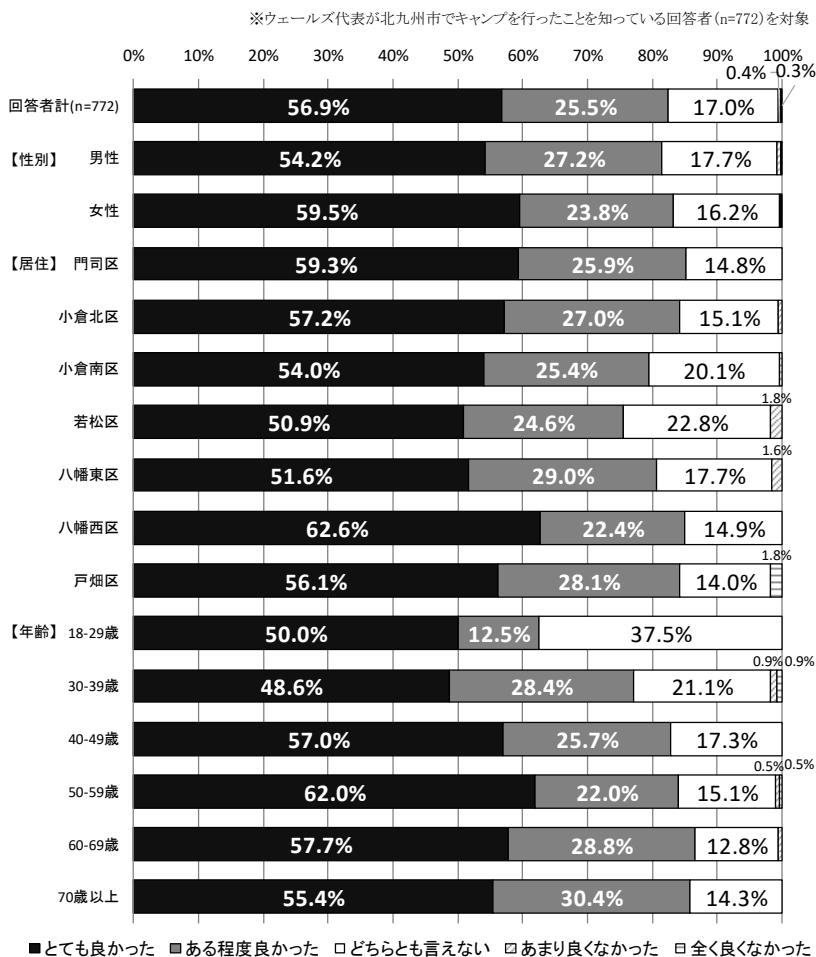


図5 北九州市でウェールズ国歌や応援歌を歌って選手を激励したことへの認識(属性別)

### 3.2.7 北九州市でのウェールズ代表キャンプ受け入れに対する評価

ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことを知っている回答者に対し、「北九  
州市でウェールズ代表がキャンプ・公開練習を行ったことに対し、どのように評価されま  
すか」(択一式)と回答を求めた結果を図6に示す。

ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

回答対象者計の57.5%が「とても良かった」、29.5%が「ある程度良かった」と回答し、計87.0%が北九州市でのウェールズ代表キャンプ受け入れを高評価している。市民や企業、地域団体、行政等による今回の取り組みは市民に非常に好意的に受け入れられていると言え、客観的にウェールズキャンプ受け入れは成功であったと評価できよう。

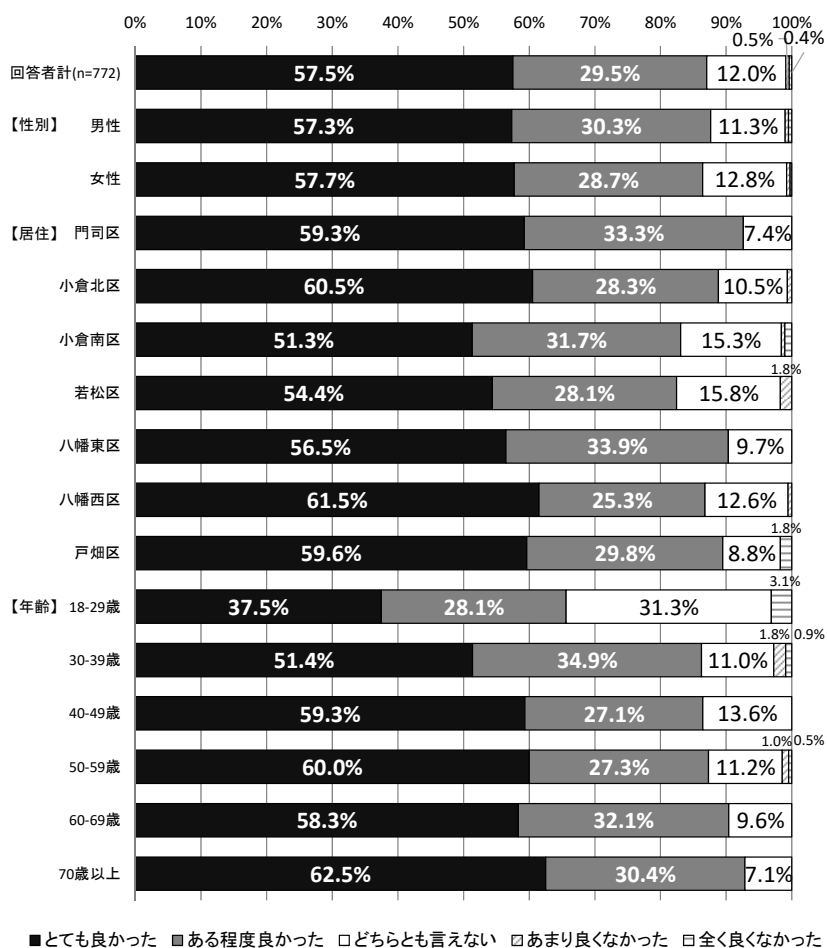


図6 北九州市でのウェールズ代表キャンプ受け入れに対する評価（属性別）

3.28 北九州市でのウェールズ代表キャンプ受け入れで「良かった」と評価できる点

ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことを知っている回答者に対し、「北九州市でウェールズ代表がキャンプ・公開練習を行ったことに関し、「良かった」と評価できる点をお答えください」（複数回答可）として回答を求めた結果を図7に示す。

最も多いのは「ラグビーワールドカップ2019への関心が高まった」(68.9%)、次いで「北九州市内において、国際交流が進んだ」(47.8%)であり、この2項目が特に回答が多い。大会そのものへの関心を高めた点ではラグビー関係者にとって大いに意義があったことと言え、また国際交流が進んだと感じる人が多い点では市民全体にとっても大いに意義があったと言えよう。この両項目以外では、「ミクニワールドスタジアム北九州が効果的に利用された」、「北九州市民の『おもてなし』の姿勢が高く評価された」、「北九州市の良いイメージが、海外に広まった」、「北九州市内において、市民のウェールズに対する理解が深まった」などへの回答が多い。ウェールズ代表を北九州市に受け入れたことは、様々な面で効果があったと市民から認識されていることが明らかとなった。

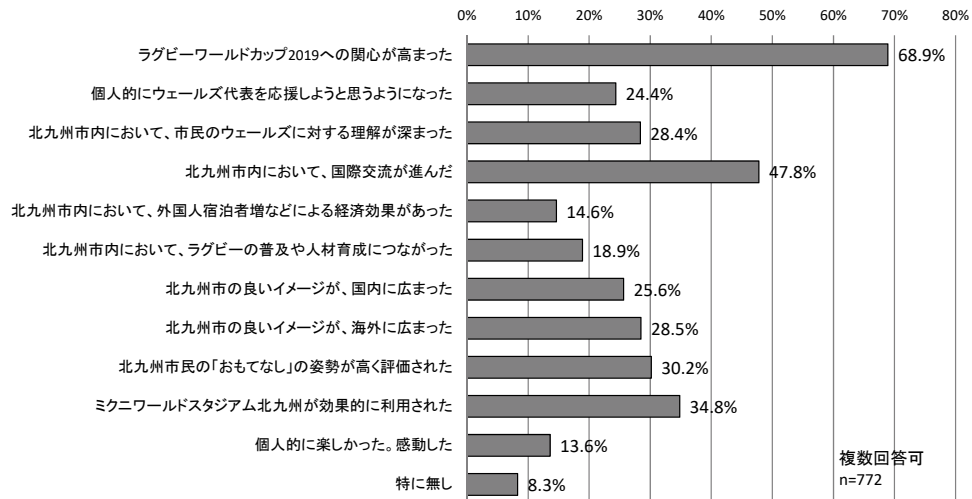
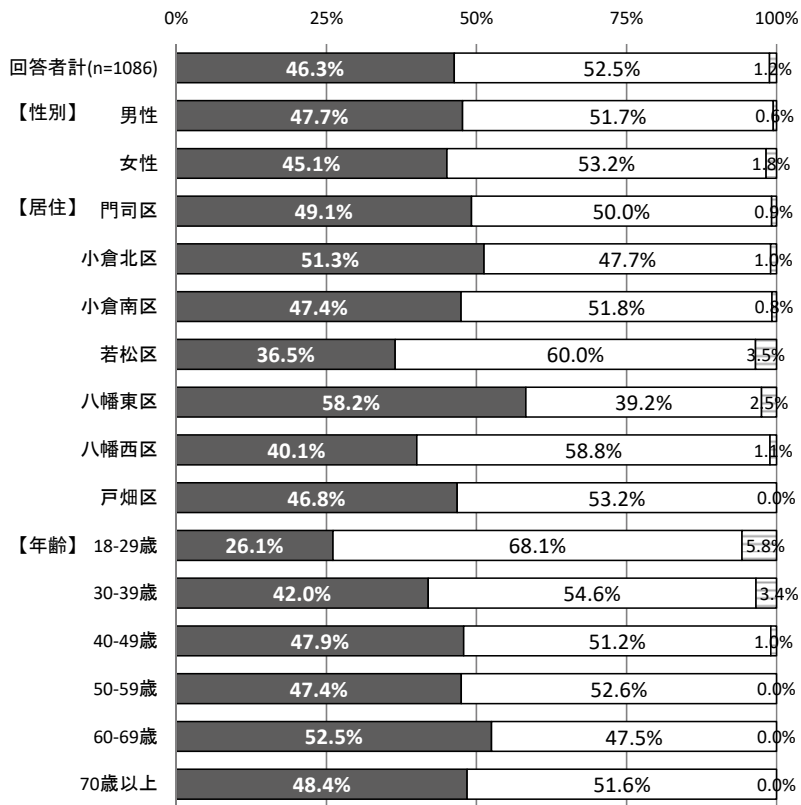


図7 北九州市でのウェールズ代表キャンプ受け入れで「良かった」と評価できる点

### 3.2.9 ラグビーワールドカップ2019開催を経ての「ウェールズ」に対する印象の変化

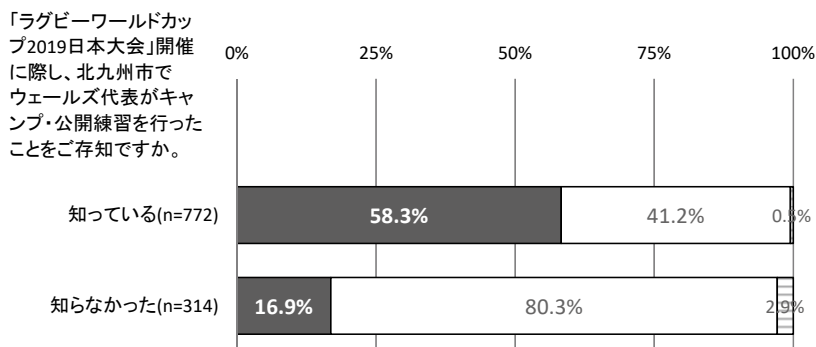
再び回答者全体 (n=1,086) を対象とした設問として、「あなたは、ラグビーワールドカップ2019日本大会開催を経て、『ウェールズ』に対する印象は変わりましたか。」と尋ねた結果を図8に示す。回答者計では「良くなった(あるいは、理解が深まった)」が46.3%、「特に変わらない」が52.5%となっている。これを、「ウェールズ代表がキャンプを行ったこと」の認知状況別にみた結果を図9に示す。キャンプ実施を知っている市民においては、ウェールズに対する印象が「良くなった」とする回答が58.3%となっている。

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—



■良くなった(あるいは、理解が深まった) □特に変わらない □悪くなった

図8 ラグビーワールドカップ 2019 開催を経ての「ウェールズ」に対する印象の変化



■良くなった(あるいは、理解が深まった) □特に変わらない □悪くなった

図9 「ウェールズ」に対する印象の変化 (ウェールズ代表キャンプの認知状況別)

### 3.2.10 ラグビーワールドカップ2019開催を経ての「ラグビー」に対する印象の変化

回答者全体（n=1,086）を対象とした設問として、「あなたは、ラグビーワールドカップ2019日本大会開催を経て、『ラグビー』に対する印象は変わりましたか。」と尋ねた結果を図10に示す。回答者全体では60.7%が「良くなった（あるいは、理解が深まった）」と回答しており、「悪くなった」は0.4%のみである。ラグビーワールドカップ2019開催は、北九州市においてラグビーへの印象や理解を大きく進展させたと評価できよう。

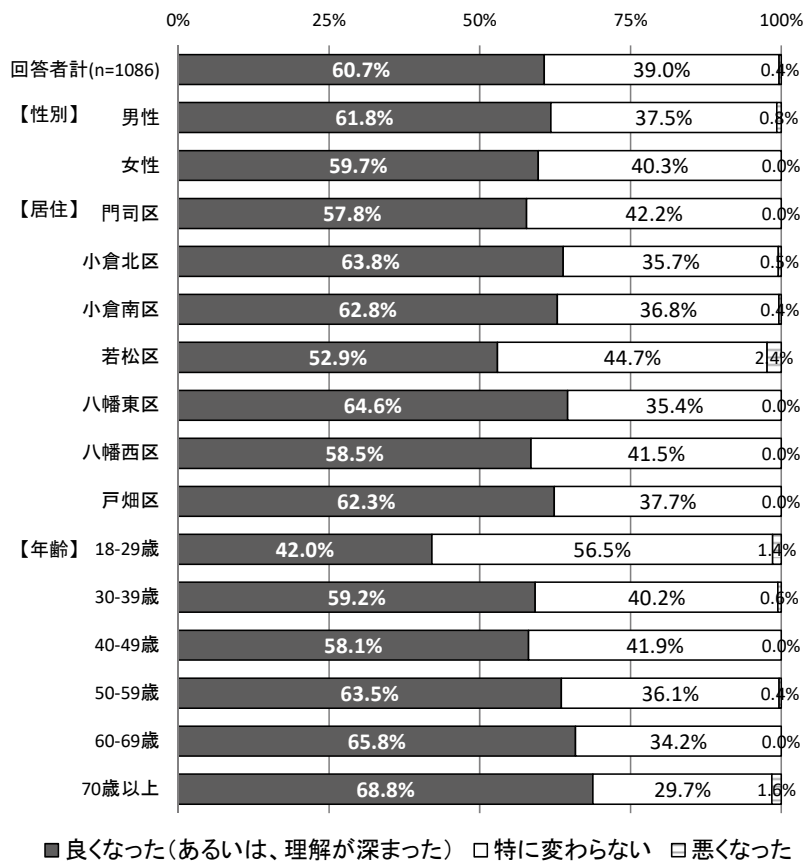


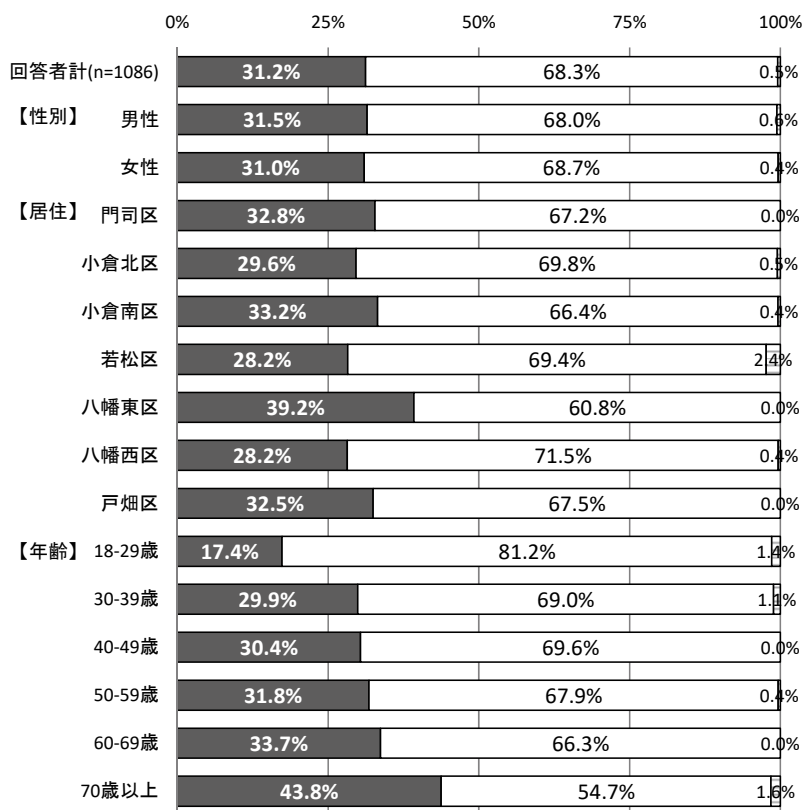
図10 ラグビーワールドカップ2019開催を経ての「ラグビー」に対する印象の変化

### 3.2.11 ラグビーワールドカップ2019開催を経ての「北九州」に対する印象の変化

回答者全体（n=1,086）を対象とした設問として、「あなたは、ラグビーワールドカップ2019日本大会開催を経て、『北九州』に対する印象は変わりましたか。」と尋ねた結果を図11に示す。回答者全体では「特に変わらない」が68.3%を占めるものの、31.2%が「良

ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

くなった（あるいは、理解が深まった）」と回答しており、ラグビーワールドカップ2019の試合開催都市ではなかった北九州市が、ウェールズ代表のキャンプ地となり、それを活かして様々な取り組みを展開したことが3人に1人の市民の「北九州」に対する印象を良くすることに寄与した点は、大きな効果と言えよう。



■良くなった(あるいは、理解が深まった) □特に変わらない ○悪くなった

図11 ラグビーワールドカップ2019開催を経ての「北九州」に対する印象の変化

### 3.2.12 ウェールズ代表を歓迎するため展開した「都市装飾」への評価

前章で述べたように、ラグビーワールドカップ2019開幕前から開催中にかけて、ウェールズ代表を歓迎すべく、小倉駅を中心に北九州市内においては大規模な都市装飾が行われた。これに対する評価を把握するため、回答者全体（n=1,086）を対象とした設問として、「今年7月以降、小倉駅周辺や魚町銀天街、井筒屋などで、ウェールズ代表を歓迎・応援するため、ウェールズの旗（赤い竜の描かれた旗）や、赤色の各種ポスター（GO GO

WALES! 等と記載)の掲示が行われました。このような期間限定の“都市装飾”を行うことについて、あなたはどのように考えますか(択一式)と尋ねた結果を図12に示す。回答者計で見ると、「とても良い」34.3%、「ある程度良い」37.6%であり、71.9%が肯定的な回答をし、否定的な回答は殆どみられない。都市装飾は小倉駅周辺(小倉北区)を中心に行われたが、小倉北区以外の住民においても肯定的な回答が多く、全市的に高評価であったことがわかる。年齢別に見ると若い世代になるほど肯定的な回答が減少し「どちらとも言えない」とする回答が増えており、若い世代への訴求力という点では工夫の余地があった可能性がある。

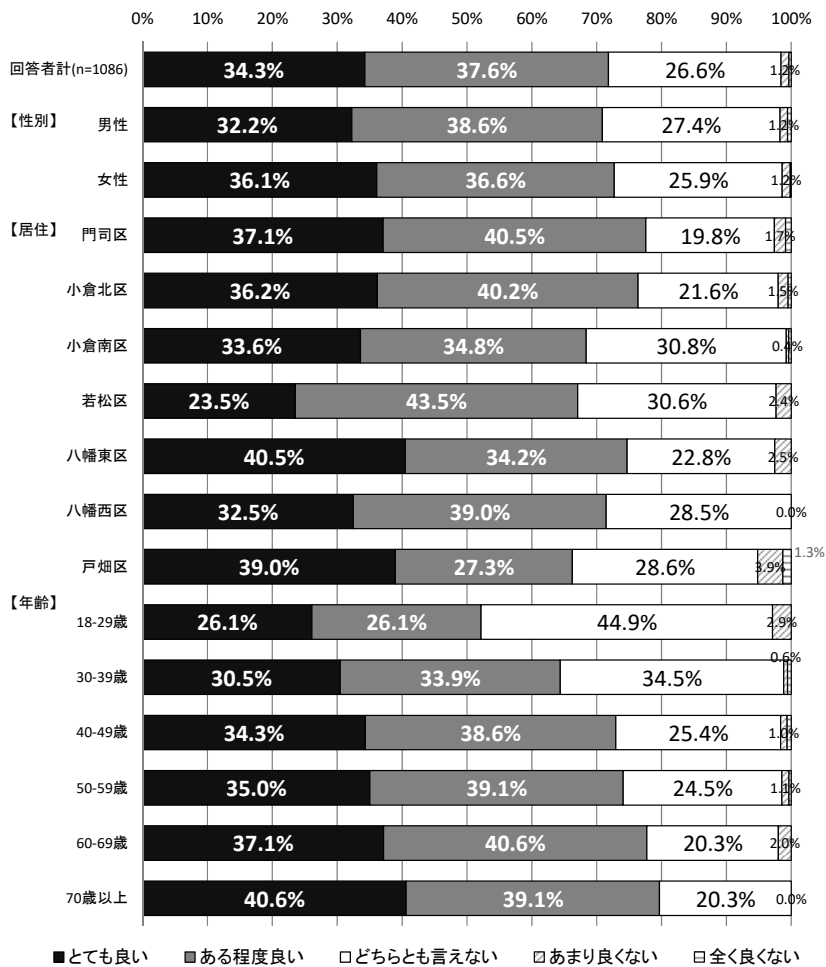


図12 ウェールズ代表を歓迎するため展開した「都市装飾」への評価(属性別)



### 3.2.13 北九州市でのウェールズ代表によるキャンプに関する報道、SNS 投稿認識

回答者全体 (n=1,086) を対象とした設問として、「あなたは、北九州市でのウェールズ代表によるキャンプ（合宿）や公開練習、新聞広告掲載などに関する報道（新聞・テレビ・ウェブニュースなど）や、SNS（ツイッター、フェイスブック、ライン、インスタグラムなど）での投稿に接することがありましたか」（択一式）と尋ねた結果を図13に示す。

「接することがあった」とする回答は25.8%にとどまっている。一方でこれまで述べてきたようにウェールズ代表キャンプの実施を知っていた回答者は多く、それを評価する回答も多い。そうした回答者について、本設問で挙げた報道やSNS以外の手法、すなわち知人や家族等からのクチコミ情報などからもウェールズ代表キャンプの情報を仕入れたことは考えられるが、報道やSNSでもっと多くの回答者が情報に触れたと想定される。本設問に関しては、設問がわかりづらかった可能性がある。

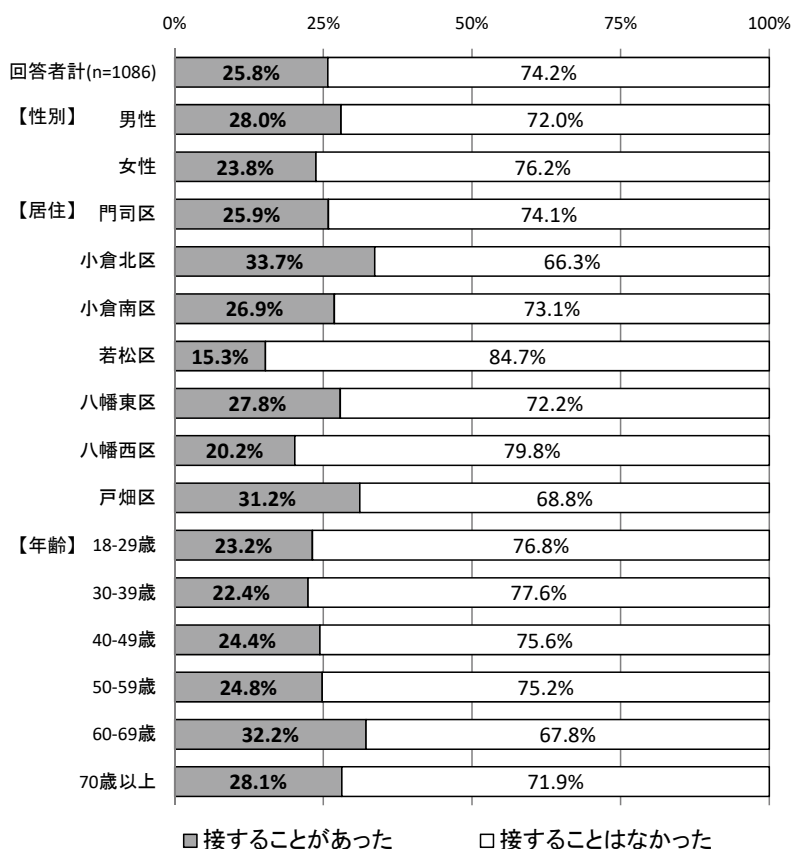


図13 北九州市でのウェールズ代表によるキャンプに関する報道、SNS 投稿認識（属性別）

### 3.2.14 報道、SNS 投稿に触れたことでのシビックプライドの変化

北九州市でのウェールズ代表によるキャンプに関する報道、SNS 投稿に「接することがあった」とした回答者（n=280）に対し、「北九州市とウェールズ代表との関わりについての報道や SNS 投稿に接したことで、あなた自身のシビックプライド（北九州市への愛着や誇り等）にどのような変化が生じましたか」（択一式）と回答を求めた結果を図 14 に示す。

「シビックプライドが非常に高まった」が 22.9%、「ある程度高まった」が 38.9% であり、過半数がシビックプライドが高まったとしている。今回のウェールズ代表キャンプ受け入れに関する一連の報道や SNS での発信は、国内外の他地域に対する北九州市の PR やイメージアップにもつながったと考えられるが、本アンケート結果を踏まえると、地域内の市民に対してもシビックプライド向上に関する一定の効果があったと言えよう。

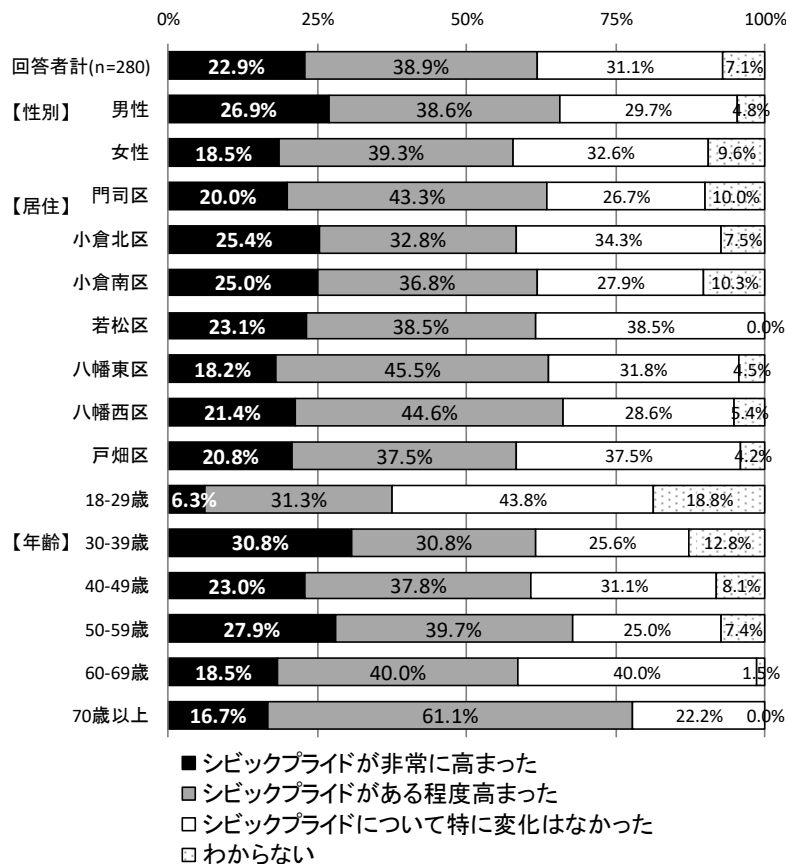
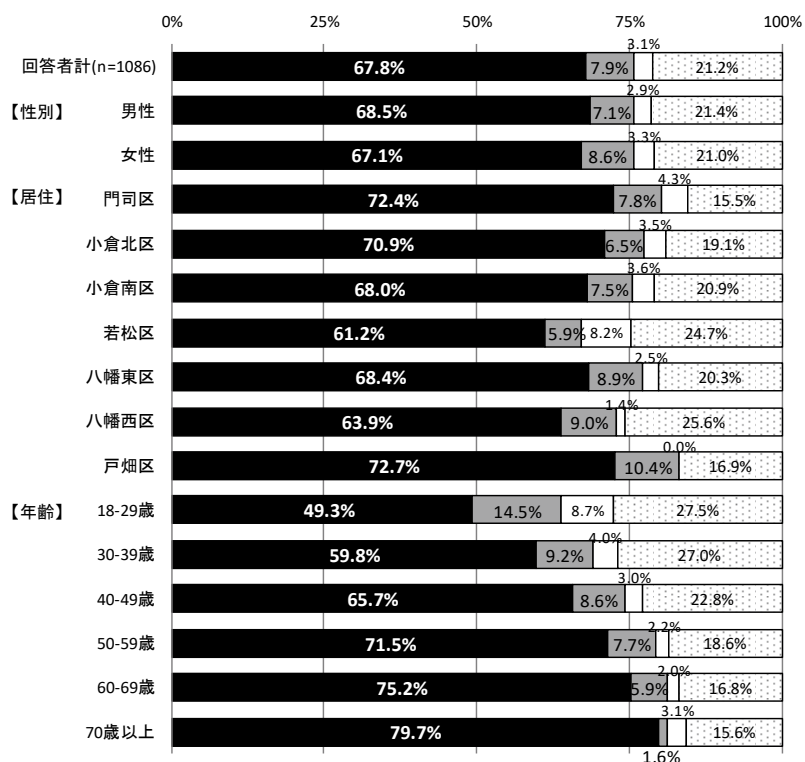


図 14 報道、SNS 投稿に触れたことでのシビックプライドの変化（属性別）

ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

3.2.15 北九州市とウェールズとの今後の交流について

回答者全体 (n=1,086) を対象に、「あなたは、今回の北九州市でのウェールズ代表によるキャンプ・公開練習などの実施によって深まった北九州市とウェールズとの今後の交流について、どのように考えますか」(択一式) として回答を求めた結果を図15に示す。本設問は今後の政策的な取り組みの方向性に関わる内容であることから特に重要な設問である。



- ラグビーにとどまらず、文化芸術・教育・ビジネスなど、様々な分野での交流を期待したい
- ラグビーに特化した交流を続けていくべき
- 今後は積極的に交流を行う必要はない
- わからない

図15 北九州市とウェールズとの今後の交流について (属性別)

回答者計では「ラグビーにとどまらず、文化芸術・教育・ビジネスなど、様々な分野での交流を期待したい」が67.8%と最多であり、「ラグビーに特化した交流を続けていく

べき」と合わせると 75.7% がラグビーワールドカップ 2019 後も北九州市とウェールズの交流を続けていくべきだと考えている。「今後は積極的に交流を行う必要はない」は 3.1% にとどまっている。前章で述べたようにラグビーワールドカップ 2019 閉幕後の 2020 年 2 月にウェールズラグビー協会と北九州市がレガシー協定を締結しており、こうした取り組みについては大半の市民の理解を得られると言えよう。

属性別にみると年齢別では若い世代において交流に積極的な回答が少ない傾向が見られ、今後の交流促進に際しては若い世代に一層の理解を求めることが課題と考えられる。

### 3.2.16 ラグビーワールドカップ 2019 に関する消費活動

回答者全体 (n=1,086) を対象に「あなたは、「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会」全般に関し、どのくらいの支出を行いましたか (チケット代、交通費、応援グッズ購入費、書籍代、観戦しながらの飲食代など)。大まかな金額についてお答えください」(択一式) として回答を求めた結果を表 9 に示す。

表 9 ラグビーワールドカップ 2019 に関する消費活動

	回答者数	構成比	※累計
0円	879	80.9%	80.9%
1～5,000円	136	12.5%	93.5%
5,001～10,000円	35	3.2%	96.7%
10,001～30,000円	25	2.3%	99.0%
30,001～50,000円	7	0.6%	99.6%
50,001～100,000円	1	0.1%	99.7%
100,001円～150,000円	1	0.1%	99.8%
150,001円以上	2	0.2%	100.0%
合計	1,086	100.0%	

80.9% の回答者が「0円」と回答し、30,000円以内までの消費額で 99.0% となっている。前述 3.2.3「ラグビーワールドカップ 2019 試合観戦の有無」において観戦した回答者は 1.1% であり、30,000円以上消費した回答者の比率と概ね一致する。高額な消費を行った市民は実際にスタジアム観戦に訪れた人々となる。一方「1～5,000円」、「5,001～10,000円」とする回答を合計すると 15.5% となり、一定の規模が見られる。これらの人々は、飲食しながらテレビ観戦したり、関連雑誌やグッズを購入したりした人々と考えられる。本調査では消費品目については質問していないが、飲食の場合、北九州市内や福岡市内のパブリッ

ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

クビューイング会場や、自宅での観戦のために商業施設で買い物をしたことが多いと推測すると、スタジアム観戦に行かなかった市民によってもある程度の経済効果が北九州市内あるいは福岡県内にあったと考えることができる。

3.2.17 北九州市内での国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ開催についての考え方

回答者全体 (n=1,086) を対象に、「あなたは、北九州市内で様々な国際的なスポーツ大会が開催されたり、外国選手団がキャンプを行ったりすることについてどのようにお考えになりますか」(択一式) として回答を求めた結果を図 16 に示す。

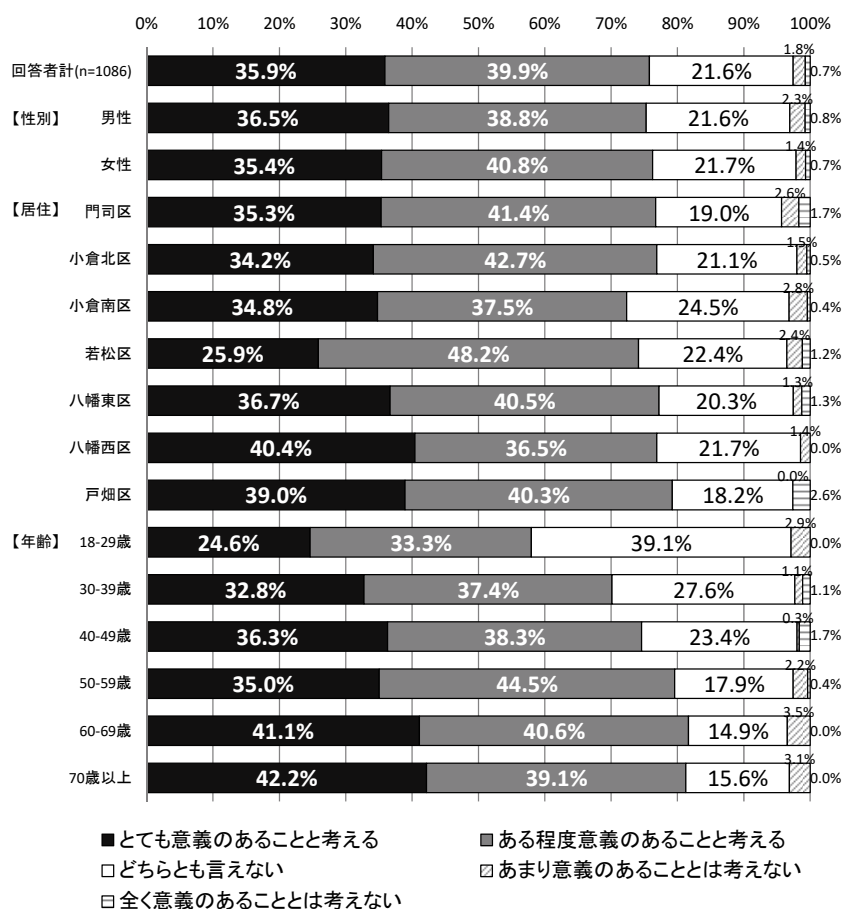


図 16 北九州市内での国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ開催についての考え方 (属性別)

本設問は本アンケート調査最後の設問であり、北九州市が政策的に取り組んでいる国際スポーツ大会等の誘致への評価に関わる内容であることから特に重要な設問となる。

回答者計で見ると、「とても意義のあることと考える」35.9%、「ある程度意義のあることと考える」39.9%となっており、75.8%が意義を認めている。否定的な回答は2%程度であり、北九州市への国際スポーツ大会の誘致や外国選手団キャンプの誘致は市民に広く意義を認められ、期待されている政策と言えよう。その背景として、ラグビーワールドカップ2019におけるウェールズ代表のキャンプ誘致が市民から支持されたことがあると推察される。

### 3.3 ラグビーワールドカップ2019開催前の調査結果との比較

#### 3.3.1 調査比較の目的等

3.2で示した2019年11月に実施した北九州市民を対象としたアンケート調査のうち、4つの設問については筆者が北九州市民を対象に2019年3月に実施したアンケート調査において類似した設問を行っている<sup>8)</sup>。2019年9～11月のラグビーワールドカップ2019開催の前後で北九州市民にどのような意識変化があったのか把握するため、両調査結果の比較を行う。両調査の比較を表10に示す。なお、両調査の手法はインターネット調査を用いること等で一致をしているが、同一の市民を対象としたものではない。ただし、モニター抽出の条件は同一であり、比較することへの妥当性はあるものと考えられる。

表10 比較する調査の概要

	2019年3月調査	2019年11月調査
調査主体	北九州市立大学 地域戦略研究所 (自主事業)	北九州市立大学 地域戦略研究所 (受託事業)
調査方法	インターネット調査	同左
対象	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、民間調査会社が管理・利用する調査モニターへ登録している市民	同左
調査期間	2019年3月6日～8日	2019年11月26日～28日
有効回収数	1,045サンプル	1,086サンプル

#### 3.3.2 ラグビーワールドカップ2019の認知度の時点比較

ラグビーワールドカップ2019開催前(2019年3月)と開催後(2019年11月)で大会の認知度を比較すると、3月時点で65.8%だった認知度は、大会後は94.7%となっている(図

ラグビーワールドカップ2019日本大会がキャンプ地にもたらした効果  
—北九州市を事例に—

17)。ラグビーワールドカップ2019の開催については各種メディアやSNS等で夏頃から頻繁に話題となっていたため、11月調査で認知度が大きく高まったことは必然である。

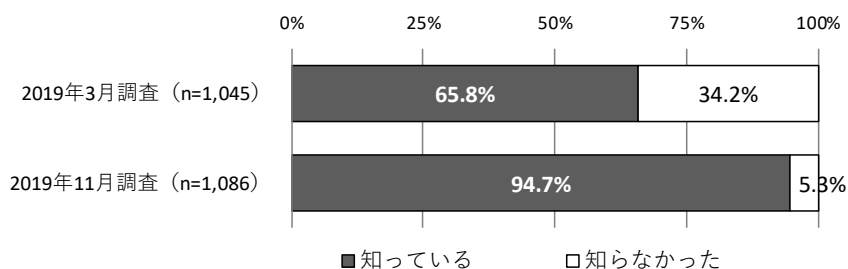


図 17 ラグビーワールドカップ2019の認知度に関する調査結果比較

### 3.3.3 ラグビーワールドカップ2019の試合観戦行動の時点比較

「観戦するつもりはない」回答者は3月時点では51.5%を占めていたが、11月時点の調査で「スタジアムでもテレビやネットでも観戦しなかった」と答えた回答者は30.3%に減少しており（図18）、実際に大会が開催されることで、当初は観戦するつもりがなかった人も観戦意欲が高まったことがうかがわれる。

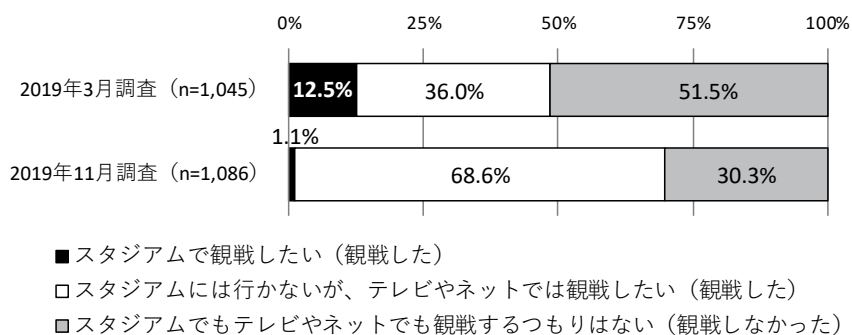


図 18 ラグビーワールドカップ2019の試合観戦行動に関する調査結果比較

### 3.3.4 ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことの認知度の時点比較

キャンプ実施前の3月時点では21.2%に過ぎなかった認知度が、キャンプ実施後の11月時点では71.1%に大幅に増加している（図19）。必然的なことと言えよう。

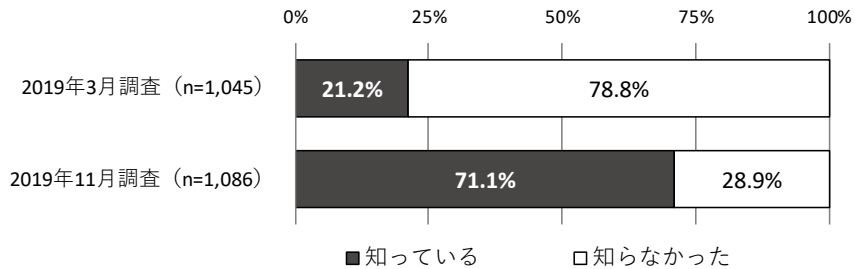


図 19 ウェールズ代表が北九州市でキャンプを行ったことの認知度に関する調査結果比較

### 3.3.5 北九州市内での国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ開催についての考え方の時点比較

本設問については、設問は同一だが選択肢について3月調査では必要性を問い、11月調査では意義という表現で問うこととしたため直接的な比較には注意が必要であるが、ウェールズ代表が北九州市でキャンプを実施した後の11月調査の方が、北九州市内での国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ開催の必要性あるいは意義に対し肯定的な回答が増加しており、否定的な回答は殆ど見られなくなっている(図20)。ウェールズ代表のキャンプが国際スポーツ大会、外国選手団キャンプの必要性あるいは意義に対する北九州市民の意識に影響を与え、その意義をより多くの人が感じるようになったと言えよう。

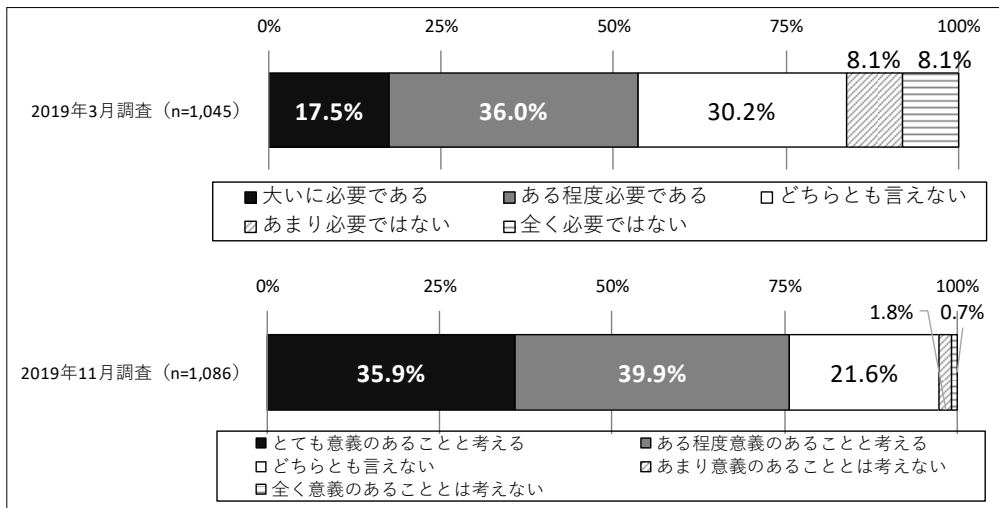


図 20 北九州市内での国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ開催についての考え方に関する調査結果比較



### 3.4 考察

北九州市民に対するアンケート調査を通じて、「ラグビーワールドカップ2019においてウェールズ代表を応援した北九州市民が多いこと」、「北九州市でウェールズ国歌や応援歌を歌って選手を激励したことについて、非常に高く評価されていること」、「北九州市でのウェールズ代表キャンプ受け入れに対する市民からの評価は非常に高いこと」、「ラグビーワールドカップ2019開催を経て、ウェールズ、ラグビー、北九州に対する印象が良くなったとする回答が一定数みられること」などの傾向が明らかとなった。北九州市がウェールズ代表キャンプを受け入れ、様々な交流活動等に取り組んできたことは客観的に「成功」であったと評価できよう。

また、北九州市とウェールズとの今後の交流について、「ラグビーにとどまらず、文化芸術・教育・ビジネスなど、様々な分野での交流を期待したい」が過半数となり、「ラグビーに特化した交流を続けていくべき」と合わせると75.7%がラグビーワールドカップ2019後も北九州市とウェールズの交流を続けていくべきだと考えている点では、ラグビーワールドカップ2019のレガシー、ウェールズ代表キャンプのレガシーが、北九州市においては着実に根付きつつあると評価できよう。前述のように2020年2月のウェールズラグビー協会と北九州市によるレガシー協定「ラグビーワールドカップ2019のレガシーの一環としてのウェールズラグビー協会と北九州市との友好・協力関係に関する覚書」の締結は、レガシーをさらに強固とするものであり、高く評価できる。今後の北九州市内での国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ開催に対しても北九州市民の大半は意義を認めている結果が得られており、北九州市におけるさらなる取り組みの充実は多くの市民から支持されると考えられる。

アンケート調査全般から、北九州市におけるウェールズ代表キャンプの受け入れ、およびラグビーワールドカップ2019関連に係る様々な取り組みは、多くの市民から成功であったと評価され、地域に様々な効果があったと高評価されていることが明らかとなった。

## 4. おわりに

### 4.1 まとめ

本研究では、ラグビーワールドカップ2019におけるキャンプ地の中からウェールズ代表のキャンプ地となった北九州市を事例として、キャンプの実施状況等の整理分析および北九州市民の意識調査を実施した。これらを通じ、北九州市においては市民からウェール

ズ代表キャンプ受け入れが高く評価され、また、事前に日本におけるラグビーワールドカップ2019開催で期待されていたレガシー<sup>9)</sup>のうち、「キャンプ地としての国際的知名度向上、スポーツ都市としてのブランド化」、「ラグビー振興」、「文化振興」、「地域の活性化」、「国際交流・国際化」など多くの面でレガシーを創出することに成功したと評価可能なことが明らかとなった。なお、北九州市では、北九州市大規模国際大会等誘致委員会が中心となり、政策的にラグビーワールドカップ2019においてはキャンプ誘致に専念し、それを実のあるものとするため交流事業や機運醸成に3年間の時間をかけて努めてきたが、キャンプ誘致のメリットとして事前に掲げていた「外国チームと市民との交流進展や北九州市の知名度向上」は上述のとおり達成できたことが本研究で客観的に明らかとなり、政策として成功したと評価できる。

大規模国際スポーツ大会における外国代表チームのキャンプ誘致を地域創生につなげるためには、北九州市がウェールズラグビー協会と共に取り組んだような地道な交流を継続的に展開すること、そして、その展開に際しては行政や競技関係者のみならず、多くの市民、企業、地域団体などがそれぞれの特性を活かして連携・協力できる機会を設け、地域を挙げて事前・事中・事後に外国チームの要望や人々の気持ちに応える丁寧な取り組みを効果的に行っていくことが必要と言えよう。

北九州市においては、ラグビーワールドカップ2019において、これを実現することができた。北九州市大規模国際大会等誘致委員会の担当者が効果を狙って入念に準備をして取り組んだ事業等がベースとなったものだが、実際の効果は想定されていた効果をはるかに上回るものであったと言っても過言ではない。丁寧な事業と、「人々の気持ちを動かす力」や「SNS（特に動画発信）の力」などが組み合わさって生まれたものと考えられるが、地域創生の面のみならず、スポーツ振興やまちづくりに関わる多分野において北九州市の事例は全国的に注目すべきものであると言えよう。

何度も述べてきたが、ラグビーワールドカップ2019の終了後、ウェールズラグビー協会と北九州市はレガシー協定「ラグビーワールドカップ2019のレガシーの一環としてのウェールズラグビー協会と北九州市との友好・協力関係に関する覚書」を締結した。今後はラグビーを中心に多分野でウェールズと北九州市の交流が継続的に深化していくことが期待できる。現時点においても北九州市はキャンプ地におけるレガシー形成の成功事例として特筆できると考えるが、さらに交流を発展・継続させていくことで、さらなるレガシーの形成の好事例となっていくことが期待される。

## 4.2 今後の研究課題

本研究においては北九州市の事例に絞って研究を行った。今後は、ラグビーワールドカップ2019における国内他地域のキャンプ地と北九州市の比較、あるいは試合開催都市（例えば福岡市、大分市、熊本市）とキャンプ地との比較等を実施し、北九州市の特色を明らかにするとともに、大規模な国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致の効果を最大化する方策の検討などを行い、国際スポーツ大会を効果的に地域創生に活かしていくための政策の研究を深めていきたい。

## 謝辞

本研究の一部は、北九州市立大学が北九州市大規模国際大会等誘致委員会（事務局：北九州市市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室）から受託した受託研究の成果である。また、ヒアリング調査においては北九州市市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室の職員の方々に御協力をいただいた。深く感謝する。

---

### (注)

- 1) ラグビーワールドカップ2019公式Webサイト「ラグビーワールドカップ2019™日本大会についてのご報告」（2019年11月3日掲出）による。
- 2) 例えば木田ほか（2006）、松橋（2018）、南（2019a）など。
- 3) 公認キャンプ地とは、ラグビーワールドカップ2019の大会期間中に出場チームが滞在する自治体を指す。詳細については2.1.1で記述している。
- 4) 例えば、ウェールズラグビー協会公式ツイッターが2019年9月16日に投稿した、ミクニワールドスタジアム北九州で少女たちが「Calon Lan」を歌っている動画は、20万回以上の再生回数となった。また、筆者がYoutubeに投稿した、同じスタジアムで市民がウェールズ国歌「Land of My Fathers」を歌って選手を迎え入れる場面の動画は70万回以上の再生回数となった（再生回数はいずれも2020年1月末時点）。これは、社会的に高い関心が示されたことを表しているとみなすことができる。
- 5) スポーツコミッション（あるいは地域スポーツコミッション）とは、スポーツ庁Webサイトにおける定義では、スポーツと、景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取り組みを行っている組織であり、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となった組織とされている。
- 6) 北九州市は公認キャンプ地の応募をラグビーワールドカップ2019組織委員会に対して実施し、2019年3月、ウェールズ代表の公認キャンプ地の一つとなることが決定した。なお、ウェールズ代表の公認キャンプ地となった自治体は、東京都、豊田市（愛知県）、大津市（滋賀県）、北九州市（福岡県）、熊本県・熊本市、別府市（大分県）であった。
- 7) 筆者はミクニワールドスタジアム北九州（2017年完成）の整備に関わり、またウェールズ代表との交流プログラムの一部等にも参画したが、2019年9月16日の公開練習でミクニワールドスタジアム北九州周辺に大行列ができ、スタジアムが満員となったことは全くの予想外の出来事であった。多くの関係者が同様の感想を持っており、関係者の予想以上にラグビーウェールズ交流プログラム in 北九州の実施や都市装飾は効果的であったと言え、また北九州市民の「ウェールズ代表を歓迎しよう」とする気持ちが強かったと言えよう。
- 8) 当該アンケート調査の詳細については、南（2019b）を参照。

- 9) 総務省（2017）に基づくと、「スポーツ振興、スポーツ施設の整備」、「開催都市や公認キャンプ地の国際的知名度向上、スポーツ都市としてのブランド化」、「ボランティアの育成」、「文化振興」、「地域の活性化」、「ラグビー振興」、「観光振興」、「多様性への理解」、「国際交流・国際化」、「子供や若者への教育」など。

<参考文献>

- 木田悟・小嶋勝衛・岩住希能（2006）「サッカーワールドカップ大会における社会的効果に関する考察：サッカーワールドカップ開催を契機とした地域活性化に関する研究その2」、『日本建築学会技術報告集』12(23)、pp.427-432.
- ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会（2016）『ラグビーワールドカップ 2019 公認チームキャンプ地ガイドライン』
- 総務省（2017）『ラグビーワールドカップ 2019 を通じた地域活性化についての調査研究報告書』
- 松橋崇史（2018）「メガスポーツイベントの関与自治体におけるソフトレガシーの形成要因－2002年日韓 FIFAW杯の関与自治体を対象にして－」、『2017年度 笹川スポーツ研究助成』 pp.173-179.
- 南博（2014）「ギラヴァンツは北九州に何をもたらすのかー第12回ー 「北九州スタジアム」への期待」、『東アジアへの視点』25(4)、pp.108-112.
- 南博（2016）「2016年シーズン開幕直後のギラヴァンツ北九州に対する市民意識」、北九州市立大学地域戦略研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（2）』、pp.19-28.
- 南博（2019a）「まちづくりにおけるスポーツ施設の意義」、九州経済調査協会『2019年版九州経済白書～スポーツの成長産業化と九州経済～』 pp.101-122.
- 南博（2019b）「2019年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州、ミクニワールドスタジアム北九州、および北九州市における国際スポーツ大会等に関する市民意識調査の集計データ」、北九州市立大学地域戦略研究所『北九州における集客イベントの効果と展望（5）』、pp.25-60.
- スポーツ庁 Web サイト <https://www.mext.go.jp/sports/index.htm>（2020年2月1日最終確認）
- ラグビーワールドカップ 2019 公式 Web サイト <https://www.rugbyworldcup.com/2019>（2020年2月1日最終確認）